

平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立 青柳小 学校 学級数 9

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標

力を合わせて がんばる子

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

- 1 取組のきっかけ
校内研修の事前事後研は、授業者からの説明の後に質疑応答を行うという一般的な形でした。話し合いを活発にするための手だてとして、「ワークショップ型研究協議」を取り入れてみた。
- 2 取組の位置付け
南セの研究員のクラスで研究授業があったので、事前事後研で「ワークショップ型研究協議」を行った。研究部と南セの研究員と連携を深めながら進めた。
- 3 取組の方法
～ワークショップ型の研究協議～
 - ・授業者より指導案の説明
 - ・本時案の内容について、1枚の付箋に1つの内容でどんどん書く。（よい点は黒字、改善点は赤字で書く）
 - ・本時案を拡大コピーしたものに、グループ全員で1枚1枚の意味を確認しながら付箋を貼る。
 - ・内容が近いと思われるカードを集め、小グループを作り、小グループの内容を要約した「タイトル」を黒ペンで書く。（グループ）
 - ・改善点について具体的な改善策を話し合い、改善点を赤ペンで書く。
 - ・グループの代表者が発表をする。（全体）



取組の成果と課題等

○ 取組の成果

- ・ワークショップ型の研究協議を行った。
（成果）→
 - ・意見交流が活発に行われ、たくさんの意見を集約することができた。
 - ・教員間で、多様な考え方があることを再認識することができ、また、課題や今後の手立てについて、知恵を出し合い、共有化することができた。
 - ・個々の教員の見方や考え方を尊重しながら、本校としての今後の方向性を見いだすことに効果的であった。
 - ・低・中・高それぞれのブロックで研究授業を行うことにより、学年の発達段階毎の成果や課題を再認識することができた。

○ 教育課程検証の方法

- ・学校評価委員会、新年度準備委員会を中心に観点・項目を精査し、洗い出された課題を整理し、改善のための具体的な方策を構築する。
- ・保護者アンケートや関係者評価結果を実施する事により、より客観性を持たせた評価とさせる。
- ・全国学力学習状況調査結果等から得られた分析結果を指導方法の改善点に反映させる。